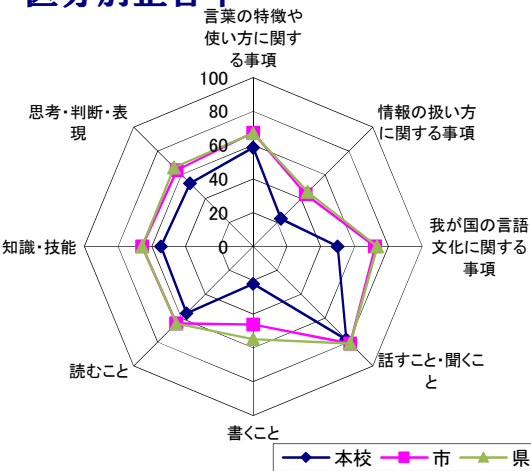


宇都宮市立平石北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	58.6	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	23.1	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	50.0	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	77.9	81.2	81.2
	書くこと	22.1	46.2	54.9
	読むこと	55.8	64.3	64.5
観点	知識・技能	54.6	65.7	65.7
	思考・判断・表現	52.9	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

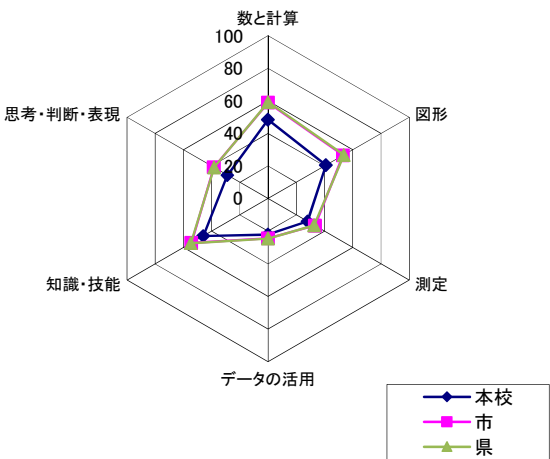
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・本校の平均正答率は58.6%で、県の平均を8.5ポイント下回った。 ○ローマ字を正しく読む問題では、正答率が73.1%で県の平均を18.1ポイント上回った。 ●文の中における主語と述語との関係を捉える問題では、正答率が46.2%で県の平均を21.3ポイント下回った。	・引き続きクロームブックで、ローマ字入力の練習を行い、ローマ字に触れる機会を多くもつ。 ・朝の学習等の時間を使って、文章の組み立て(主語・述語)について正しく捉えられるように学習する機会を増やす。
情報の扱い方にに関する事項	・本校の平均正答率は23.1%で、県の平均を22.6ポイント下回った。 ●国語辞典の使い方を理解し、使うことができる問題では、正答率が23.1%で県の平均を22.6ポイント下回った。	・国語辞典の表記の仕方、読み取り方に慣れるため、国語辞典を使った意味調べの活動を、繰り返し行う。
我が国の言語文化にに関する事項	・本校の平均正答率は50%で、県の平均を23.4ポイント下回った。 ●漢字のへんとつくりを正しく組み合わせる問題では、正答率が50.0%で県の平均を23.4ポイント下回った。	・漢字を部首ごとに分けたり、新出漢字の部首を調べたりする活動を授業の中で行うなど、漢字のへんやつくりを理解する機会を多く設ける。
話すこと・聞くこと	・本校の平均正答率は77.9%で、県の平均を3.3ポイント下回った。 ○司会者の話し方の工夫を捉える問題では、正答率が88.5%で県の平均を10.8ポイント上回った。 ●司会者の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に考えをまとめる問題では、正答率が61.5%で県の平均を14.7ポイント下回った。	・話し合い活動を行う際には、自分の考えや考えの根拠を明らかにして話すことを指導する。 ・学級活動や話し合い活動、また、継続的な朝の1分間スピーチを行い、話を要約したり言い換えしたりする場面を意図的に設定する。
書くこと	・本校の平均正答率は22.1%で、県の平均を32.8ポイント下回った。 ●指定された長さで文章を書くことができる問題では、正答率が23.1%で県の平均を37.2ポイント下回った。	・思ったことや考えたことを各教科等で記述する機会を増やし、文章を書くことに慣れるようにする。 ・学校行事や生活等の振り返りを短文に書かせるなど、継続的に作文指導を行う。その際、段落の役割を明確にさせ、はじめ、中、終わりのまとまりを意識しながら書くよう指導する。
読むこと	・本校の平均正答率は55.8%で、県の平均を8.7ポイント下回った。 ○登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える問題では、正答率が100%で県の平均を9.1ポイント上回った。 ●叙述を基に段落の内容を捉える問題では、正答率が26.9%で県の平均を25.1ポイント下回った。	・物語文の学習では、登場人物の気持ちや思いを文章から読み取る活動を繰り返し行う。 ・文章を読む際に、段落ごとに書かれている内容を要約したり、段落ごとの内容の違いを明確にしなが読み取ったりする活動を授業の中で繰り返し行う。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	48.5	58.9	59.2
	図形	41.0	53.0	53.7
	測定	27.9	33.1	32.6
	データの活用	22.1	24.4	24.6
観点	知識・技能	46.0	54.3	54.7
	思考・判断・表現	28.9	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

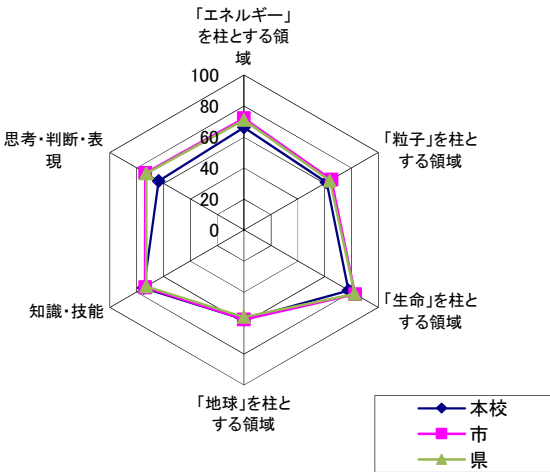
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・本校の平均正答率は48.5%で、県の平均を10.7ポイント下回った。 ○分数の表す正しい大きさを答える問題では、正答率が80.8%で県の平均を3.1ポイント上回った。 ●口を使ったかけ算の式に合った文章を選ぶ問題では、正答率が11.5%で県の平均を28.1ポイント下回った。	・かけ算の基礎である「1つ分」「いくつ分」を意識できるような文章問題を繰り返し行ったり、式から問題を作る練習を行ったりすることで式の成り立ちについて理解を図る。
図形	・本校の平均正答率は41%で、県の平均を12.7ポイント下回った。 ○二等辺三角形になる図を選ぶ問題では、正答率が69.2%で県の平均を1.2ポイント上回った。 ●球の半径を利用して箱のたての長さを答える問題では、正答率が26.9%で県の平均を25.9ポイント下回った。	・円や球の直径や半径の特徴を正しく理解できるよう、実際に長さを測る活動を取り入れ深められるようにする。 ・具体物やICT機器を活用しながら、円や球の半径から箱の長さを求めるなど様々な応用問題に取り組ませる。
測定	・本校の平均正答率は27.9%で、県の平均を4.7ポイント下回った。 ○前後の時刻や時間の経過から、途中の時間を求める問題では、正答率34.6%で県の平均を1.9ポイント上回った。 ●地図から2つの道のりを読み取り、差を答える問題では、正答率が30.8%で県の平均を13.2ポイント下回った。	・地図から必要な情報を読み取り、道のりを計算するような問題を授業の中で意図的に取り入れることで、長さの加法性に着目して正しく道のりを求められるよう指導する。
データの活用	・本校の平均正答率は22.1%で、県の平均を2.5ポイント下回った。 ○示されたテーマについて、適切なグラフを選び、選んだわけを説明する問題では、正答率15.4%で県の平均を4.8ポイント上回った。 ●目盛りの付け方が異なる2つの棒グラフで、棒の長さで数を比べられないわけを説明する問題では、正答率が11.5%で県の平均を11.8ポイント下回った。	・場面や用途に合った様々なグラフに慣れ、グラフによって目盛りの付け方や数値の読み方が変わることを認識できるようにする。 ・社会や理科、総合的な学習の時間などでもグラフを活用する機会をつくり、様々なグラフを読み取ったり、目的に応じてグラフに表したりする場を設けていく。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	66.2	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	61.5	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	77.8	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	57.7	57.7	56.2
観点	知識・技能	74.7	73.8	72.8
	思考・判断・表現	63.5	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	・本校の平均正答率は66.2%で、県の平均を4.8ポイント下回った。 ○音の大小とふるえ方の違いを問う問題では、正答率が84.4%で県の平均を13.3ポイント上回った。 ●ゴムをのばす長さや車の動く距離の関係に着目し、車の動く距離を推測する問題では、正答率が53.9%で県の平均を17.2ポイント下回った。	・既習内容を基に、課題について見通しをもち、実験や観察を通して原因や理由を推測する活動を充実させていく。考察では、これまでの学習や生活との関係、さらに調べたいことなどに関連させてまとめるよう指導する。
「粒子」を柱とする領域	・本校の平均正答率は61.5%で、県の平均を2.4ポイント下回った。 ●同じ体積でもものの種類によって重さが違うことを問う問題では、正答率が38.5%で県の平均を2.6ポイント下回った。	・まとめや考察では、授業で学習した言葉や名称等を使い、理由や条件、設定を踏まえながら、言葉で表現する活動を積極的に取り入れていく。
「生命」を柱とする領域	・本校の平均正答率は77.8%で、県の平均を4.6ポイント下回った。 ○植物のめばえを問う問題では、正答率が88.5%で県の平均を4.6ポイント上回った。 ●昆虫とダンゴムシの体のつくりの違いを問う問題では、正答率が46.2%で県の平均を25.2ポイント下回った。	・虫眼鏡やルーペなどの道具を使いながら、直接、動植物の観察をさせたり、写真や動画を活用して動植物の特徴に気づかせたりして考える場面を設ける。
「地球」を柱とする領域	・本校の平均正答率は57.6%で、県の平均を1.5ポイント上回った。 ○方位磁針の使い方を問う問題では、正答率が53.9%で県の平均を10.1ポイント上回った。 ●かげの方向とかげふみの動きの関係性を問う問題では、正答率が61.5%で県の平均を8ポイント下回った。	・学習したことを知識として得るだけでなく、自分たちの生活のどの場面で活用されているのか、どんな時に生かせるか、自分たちの生活とどのように関わっているのか、考える場面を設け、学習を深めさせていく。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」の質問では、本校の肯定的回答の割合は88.5%であり、県を10.1ポイント上回った。分からないところがあっても聞きやすい雰囲気や関係性を築けていることが表れている。

○「学級活動の時間に、友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決めていると思う。」の質問では、肯定的回答の割合が61.5%と、県を15.1ポイント上回った。今後も学級活動の時間を活用してクラスの課題や問題を解決する時間を設けていく。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」の質問では、本校の肯定的回答の割合は65.4%であり、県を10.7ポイント下回った。「家で、学校の授業の復習をしている。」の質問では、本校の肯定的回答の割合は53.8%であり、県を14.2ポイント下回った。以上の結果から、家庭での学習の仕方には個人差が大きく、家庭学習の習慣が定着していない児童が一定数いることが考えられる。宿題や自主学習も含めて、家庭での学習の進め方を今後も指導していく。

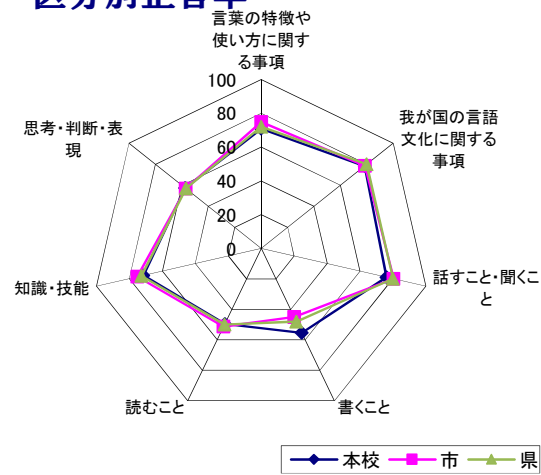
●「だれに対しても、思いやりの心をもってせっている。」の質問では、本校の肯定的回答の割合は69.3%であり、県を22ポイント下回った。学級活動や道徳科の時間を活用して、友達の立場や気持ちを想像したり、思いやりたりする心の大切さを指導していく。

●「授業を集中して受けている。」の質問では、本校の肯定的回答の割合は73.1%であり、県を19.1ポイント下回った。また、友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている。」の質問では、本校の肯定的回答の割合は73.1%であり、22.5ポイント下回った。「学校のきまりを守っている。」の質問では、本校の肯定的回答の割合は73.1%で、県を21.4ポイント下回った。以上の結果から、児童が主体的に学習に取り組めるよう授業の改善を図るとともに、授業の受け方や話の聞き方、学校での生活の仕方についてのきまりやルールを確認し、指導を徹底していく。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.9	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	78.3	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	76.1	80.4	80.0
	書くこと	55.4	45.1	48.0
	読むこと	49.5	51.3	50.0
観点	知識・技能	71.5	75.2	72.8
	思考・判断・表現	57.6	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

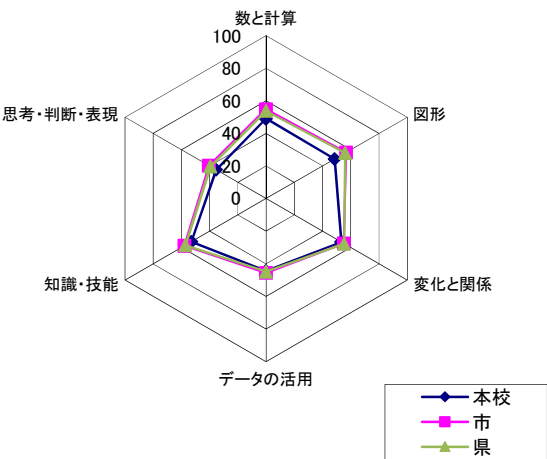
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・本校の平均正答率は70.9%で、県の平均を1.1ポイント下回った。 ○漢字を正しく書く問題では「兵隊」の正答率が60.9%で、県平均を11.7ポイント上回った。 ●漢字を正しく書く問題では「約束」の正答率が56.5%で、県平均を14.2ポイント上回った。	・漢字の読み書きについて、新出漢字を使った様々な熟語に触れる機会を意図的に設定する。 ・分からない漢字を辞典や1人1台端末を活用して調べさせることで、語彙を増やす。
我が国の言語文化に関する事項	・本校の平均正答率は78.3%で、県の平均を1.6ポイント下回った。 ●「頭をひねる」の慣用句を正しく使っている人物を選ぶ問題では、正答率が78.3%で、県平均を1.6ポイント下回った。	・国語辞典や漢字辞典、ことわざ辞典などを活用し、ことわざや慣用句、故事成語などの意味を知る機会を増やす。 ・ことわざや慣用句、故事成語などを日常生活の中で実際に使えるようにしていくために、条件を示して日記や短文を書く活動を取り入れていく。
話すこと・聞くこと	・本校の平均正答率は76.1%で、県の平均を3.9ポイント下回った。 ○「クイズ大会」と「日本の遊び」のどちらがよいと思うか自分の考えを理由を挙げながらまとめる問題では、正答率が65.2%で、県平均を12.7ポイント上回った。 ●話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ問題では、正答率が65.2%で、県平均を18.9ポイント下回った。	・話し手の伝えたいことを考えながら聞くことは、継続して指導する。 ・メモの取り方などを工夫したり、共通点や相違点に注目して聞いたりするなど、より詳しく聞き取るための方法を指導し、国語以外の学習でも活用できるようにする。 ・自分の考えを、理由を挙げながら話す機会を多く設定する。
書くこと	・本校の平均正答率は55.4%で、県の平均を7.4ポイント上回った。 ○内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書く問題では、正答率が60.9%で、県平均を17.1ポイント上回った。 ○指定された長さで文章を書く問題では、正答率が73.9%で、県平均を16.5ポイント上回った。	・段落構成について復習したり、事実に対する自分の考えを書く学習を意図的に取り入れたりと、伝えたいことを明確にできるようにする。 ・ペアやグループ学習の中で、友達の書き方のよさを自分の文章表現に生かすことができるように支援する。 ・記述が苦手な児童には個別に対応して、適切な文章表現が身に付くよう指導及び支援をする。
読むこと	・本校の平均正答率は49.5%で、県の平均とほぼ同じだった。 ○段落の内容ごとのまとまりの分け方として適するものを選ぶ問題では、正答率が43.5%で、県平均を9.4ポイント上回った。 ●登場人物の行動の理由を説明した文として選ぶ問題では、正答率が52.2%で、県平均を19.3ポイント下回った。	・これまで通り読書を奨励し、いろいろなジャンルの本に親しむ場を設ける。 ・物語や説明文を読み取るときに、文章の要点となるキーワードや大事な言葉について学級全体で考えたり、話し合ったりし、中心となる事柄や場面の様子を読み取るようにする。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	49.1	54.9	53.7
	図形	48.6	56.6	56.1
	変化と関係	53.3	55.1	55.2
	データの活用	44.4	45.5	44.8
観点	知識・技能	53.0	57.8	57.2
	思考・判断・表現	35.4	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

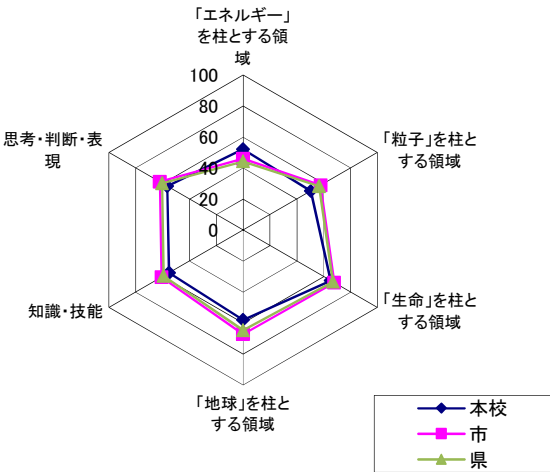
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・本校の平均正答率は49.1%で、県の平均を4.6ポイント下回った。 ○小数第一位×整数の計算をする問題では、正答率が73.9%で県平均を11.2ポイント上回った。 ●四則混合の計算の順序を答える問題では、正答率が17.4%で県平均を21ポイント下回った。 ●大きな数の表し方や構成を理解して答える問題では、正答率が65.2%で県平均を17.5ポイント下回った。	・位取りについての理解が図れるよう、半具体物を活用したり、位取り板等を活用したりして、数の構成を理解させる。 ・フォローアップシートやドリル等を活用し、学力向上担当教員と連携しながら個に応じた指導の充実させる。
図形	・本校の平均正答率は48.6%で、県の平均を7.5ポイント下回っている。 ○立方体の展開図を求める問題では、正答率78.3%で県平均を7.9ポイント上回った。 ●平行四辺形の作図の問題では、正答率が21.7%で県平均を24ポイント下回った。 ●面積の求め方を理解し、正しい式を選ぶ問題では、正答率が47.8%で県平均を20.8ポイント下回った。	・図形の作図において、図形の特徴を理解し、コンパスや三角定規、分度器を正しく使えるよう指導し、反復練習に取り組み定着を図る。 ・様々な方法で図形の面積を求めることを考えさせるとともに、AI型学習ドリルや計算ドリルなどを活用し、いろいろな面積の求め方を理解できるように指導する。
変化と関係	・本校の平均正答率は53.3%で、県の平均を1.9ポイント下回った。 ○割合を使った比べ方について差を用いる場面と割合を用いる場面について説明する問題では、正答率が34.8%で県平均を5.4ポイント上回った。 ●表を横にみることで、伴って変わる2つの数量の関係をを読み取る問題では、正答率69.6%で県平均を10.8ポイント下回った。	・AI型学習ドリルや計算ドリルなどを活用し、□を使った式を立ててから数字を当てはめ、値を求める解法の定着を図る。また、他教科や学校生活の様々な場面で、「倍」を使った表現を使えるような活動を取り入れていく。 ・意図的に、表から2つの数量の関係を読み取る活動を取り入れる。また、他教科の学習にも関連づけ、身近な場面で割合の仕組みを生かせる力を育む。
データの活用	・本校の平均正答率は44.4%で、県の平均を0.4ポイント下回った。 ○グラフから正しく変化の様子を読み取り変化の様子を説明する問題では、正答率が17.4%で県平均を8.6ポイント上回った。 ●折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから、傾向を読み取る問題では、正答率が39.1%で県平均を7.4ポイント下回った。	・グラフや表が何を表しているのかを理解し、データを正しく読み取ったり表に表したりする活動を取り入れ、表やグラフを読み取る力を育む。また、学校生活の様々な場面でグラフや表を利用する機会を増やし、その便利さに気付けるようにする。 ・データ資料から傾向を読み取り、考えられることや気付いたことを文章でまとめるなど、資料を分析する力が身に付くようにする。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	52.2	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	50.4	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	65.2	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	58.0	67.2	64.6
観点	知識・技能	55.3	60.8	59.2
	思考・判断・表現	56.5	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	・本校の平均正答率は52.2%で、県の平均を7.9ポイント上回った。 ○並列つなぎと乾電池の関係を答える問題では、正答率が56.5%で県の平均を14.4ポイント上回った。 ○簡易検流計の針の向きやふれ具合を答える問題では、正答率が39.1%で県の正答率を8.9ポイント上回った。	・電気の流れについて調べる学習において、引き続き、実験した結果を図を用いてまとめたり、言葉を使って説明させたりする活動を多く取り入れ、学習内容の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	・本校の平均正答率は50.4%で、県の平均を6.2ポイント下回った。 ○湯気と水蒸気の違いを答える問題では、正答率が34.8%で県の平均を3.8ポイント上回った。 ●空気のあたためり方と身の回りの現象の関連を答える問題では、正答率が52.2%で県の平均を19.9ポイント下回った。	・身の周りの生活経験と関連付けて考えさせたり、仮説を立てて学習課題に取り組むことを授業の中で多く取り入れられたりして、科学的な視点から観察や考察をする機会を意図的に設定する。 ・AI型学習ドリル等ICTを活用して学習内容をアウトプットする機会を意図的に取り入れ、定着を図る。
「生命」を柱とする領域	・本校の平均正答率は65.2%で、県の平均を1.7ポイント下回った。 ○腕を伸ばした時の筋肉のはたらきを答える問題では、正答率が69.6%で県の平均を7.4ポイント上回った。 ●季節ごとの動物の活動を答える問題では、正答率が60.9%で県の平均を12.7ポイント下回った。また、季節と植物の様子を答える問題についても正答率が30.4%で県の平均を6.8ポイント下回った。	・観察の難しい動植物の生態については、ICTや図書資料を活用し、興味や関心をもって学習できるようにする。 ・他教科とも関連付けて体験的に学習に取り組み、学習の定着を図る。 ・学習したことを基にグループで考えを述べ合い、考えを広めたり深めたりするなどの活動を行うことで理解を深める。
「地球」を柱とする領域	・本校の平均正答率は58.0%で、県の平均を6.6ポイント下回った。 ○空気中の水蒸気が冷やされると液体の水になることを答える問題では、正答率が65.2%で県の平均を16ポイント上回った。 ●気温のはかり方を身に付けているかを答える問題では、正答率が34.8%で県の平均を25.5ポイント、星の色を答える問題についても正答率が30.4%で県の平均を25.3ポイント下回った。	・基礎的内容の理解が不十分である単元については朝の学習やフォローアップシートを活用して定着を図る。 ・単元のまとめの時間には、応用的な内容を取り入れ、自分たちの生活との関わりの中で考えたりし、知識の活用や表現力を高められるようにする。 ・AI型学習や図書資料のほかに、新聞やテレビ等の社会から得られる情報を活用し、学習内容に興味関心がもてるようにする。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は91.3%と県を14.1ポイント上回っている。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」という質問に対しての肯定的回答は、県を8.7ポイント上回っている。このことから、自分の意見を深めるために友達の意見を共感的に聞き、推敲の材料としていることが分かる。今後も、友達との意見交換を通して、自分の意見に自信をもち、発表する機会につなげられるよう指導を継続していきたい。

○「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は73.9%と県を5.4ポイント上回っている。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」という質問に対しての肯定的回答は、県を10.3ポイント上回っている。このことから物事に対する興味関心が高く、自分に合った調べ方が定着していることが分かる。この結果を生かし、グループ活動を積極的に取り入れ、皆で集めた多くの情報から必要な情報を取捨選択する力の育成につなげていきたい。

○「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は100%で県を9ポイント上回っている。このことから、自分自身を認め、自分のよさを自覚していることが分かる。これは自己肯定感を高めることにつながり、さらに物事への意欲や将来への希望にもつながるため、この結果を生かし、皆のために行動できる児童の育成に引き続き努めたい。

●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は65.2%で県を8.8ポイント下回っている。提示された課題については自分なりに取り組むことができるが、自ら課題を見付け考えを深めていくことに苦手意識をもっていることが分かる。児童が自信をもって取り組めるようにするためにも、自分の考えをもつ時間を十分に確保し、児童の「なぜ」に注目し、授業の展開につなげられるようにしていきたい。

●「問題を解く時間は十分でしたか。」という質問に対して、算数で本校の否定的回答が県の否定的回答を上回っている。算数の問題に取り組む時間が足りないと感じた児童が多かったことが分かる。児童は多くの問題数があるテストに慣れておらず、時間配分がうまくつかめていない傾向にある。このことから多くの問題形式に触れる機会を意図的に設定し、解答すべき内容を読み取る力の育成に取り組むとともに、ペース配分を考えて日頃からのテストに取り組むことができるよう指導していきたい。

宇都宮市立平石北小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えをもち、ともに学び合う児童の育成 ～対話的活動を効果的に取り入れた授業づくりを通して～	・宇都宮モデルの指導の質的向上 ・資料活用能力の育成 ・読解力（語彙力）の育成、読書活動の充実 ・個に応じた指導の充実	4年生は、問題を解くことに時間がかかる傾向がみられた。国語の「書くこと」「情報の扱いに関する事項」において県平均に比べて低かった。問題内容を理解すること、課題解決に向けた必要な情報を得ること、自分の思いや考えをまとめることが難しいという傾向が見られた。 5年生は、県平均より低めではあるが、ほぼ同等の値であったが、算数の「図形」において県平均と比べて低かった。作図すること、面積を求めることが難しいという傾向が見られた。 4年理科の知識・技能、5年国語の思考・判断・表現以外は低い結果となった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
宇都宮モデルを意識した授業を行ってきたが、読解力（語彙力）の育成、情報活用能力の育成、自分の考えをまとめ整理する力などに課題が見られた。基礎力を問う問題の中でも、思考力・判断力・表現力等を問う問題に課題がみられる。	各教科において基礎・基本内容を確実に習得し、得られた知識・技能を活用しながら課題探究学習に取り組む、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。	十分に定着していない内容を見直し、フォローアップ問題やAI型学習等を計画的に活用し、基礎・基本の習得を図る。また、課題追究の場を設けたり、読解力（語彙力）を育くんだりするとともに情報・資料活用能力が育成できるような学習や活動の場を設定し、発展的且つ補充的学習の定着を目指す。